

平成27年度学校評価実施報告書

| 学校目標 | 取組の内容 | | 校内評価 | | 学校関係者評価 | 学校評価 |
|---|---|---|--|--|--|--|
| | 具体的な手立て | 評価の観点 | 達成状況 | 課題・改善方策等 | | |
| <p>【教育課程】</p> <p>(1) 確かな学力を一層向上させるため、教育課程の効果と運用の検証を踏まえ、将来を見据えた教育課程・校内体制についての研究を推進する。</p> | <p>(1)</p> <p>①学校として生徒に身につけさせたい学力の育成と生徒の進路希望の実現のために、現在の教育課程・校内体制の検証と将来に向けた研究を行う。</p> <p>②3年目を迎えた新学習指導要領に基づく教育課程について、成果と課題を検討する。</p> <p>③学習への取組や達成度を検証し、効果的な教育課程の運用や指導・校内体制のあり方を検討し、一層の学力向上を目指す。</p> | <p>(1)</p> <p>①教育課程・校内体制について現状の検証と将来に向けた研究が行われたか。(担当者評価)</p> <p>②教育課程が求められる学力や生徒の進路ニーズに沿った内容であるか。(教科アンケート、進路状況調査)</p> <p>③学習状況の検証を受けて、教育課程の運用や指導が効果的にできたか。(担当者評価)</p> | <p>(1)</p> <p>①各学年生徒の学力向上に向け、年間教育計画を検討した。</p> <p>②教科ごとに「身につけさせたい学力」の内容を検討し授業に反映させた。</p> <p>③学習状況の検証を行った。</p> | <p>(1)</p> <p>①次年度年間教育計画で授業数確保、夏期講習、3年三者面談、部活動等を適切に配置する。</p> <p>②教育課程について教育目標と生徒に「身につけさせたい学力」を鑑みて継続的に検討する。</p> <p>③生徒による授業評価、2学年学習状況調査等を用いて本校生徒の学力実態の検証を進める。</p> | <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力面での課題について、自ら課題を設定し、解決する力を育てるための授業改善を今後も継続して工夫して欲しい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価において「生徒主体の授業」の観点が向上しているのは大きな成果であり、外部に発信すべきである。 | <p>(1)</p> <p>①7月の月間行事を見直し、成績処理業務期間については夏季休業期間を活用することで授業時数の確保を行った。</p> <p>②「身につけさせたい学力」を各教科が明確に設定し、教員間で工夫を話し合う取り組みが定着した。</p> <p>③生徒による授業評価の結果によると、3年間を通じて生徒の評価が向上した。</p> |

| | | | | | | |
|---|---|---|--|---|--|---|
| <p>(2) 生徒の自己実現のため、学習者ニーズや進路希望を的確に把握し、効果的なガイダンス体制をさらに充実させる。</p> | <p>(2) 教育課程の説明から面談、本人の進路選択決定までの一連の指導のしくみを整備し、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。</p> | <p>(2) 自己実現のためのガイダンスを効果的に実施できたか。(担当者評価・生徒アンケート)</p> | <p>(2) 学年に応じた教育課程説明会(保護者、生徒)や個別面、三者談等を適時に設定し、自己実現のためのガイダンスを実施した。</p> | <p>(2) グループや学年との協働体制をさらに強め、生徒の自己実現のための指導の仕組みを整備する。 面談をさらに充実させる。</p> | | <p>(2) 1・2年生で教育課程説明会、各学年で面談を実施した。またガイダンスを実施して自己実現に資した。</p> |
| <p>【生徒指導・支援】 (1) 生徒一人ひとりが社会規範を守り主体的に行動できる人づくりのために、生徒理解に基づく、組織的、継続的な支援、指導に取り組む。</p> | <p>(1) ①日常生活における規範意識を高め、近隣への騒音に対する配慮や校地の移動における通行マナー等、あらゆる場面での指導と注意喚起を徹底して行うとともに、生徒自らが考えて行動する指導を行う。 ②交通安全の観点から、登下校における交通マナーや自転車利用の交通法規等の理解を深めるため、定期的な登下校指導や交通安全指導等を行う。</p> | <p>(1) ①生徒の社会規範の意識向上を目指すグループ及び校内体制の確立を図ることができたか。(担当者評価・外部評価) ②交通安全に係る指導や講習会等を年間3回以上実施・開催することができたか。(担当者評価)</p> | <p>(1) ①各学年の指導・支援担当者を中心とした指導体制を整え、情報の共有化を図り組織的な指導・助言等を行った。 ホームルーム活動や学年集会を通じ、継続的な指導を行った。 ②登校指導や講習会を計画どおり実施し、交通法規の周知を図り、マナー向上の支援を行った。 ホームルーム活動や学年集会を通じ、継続的な指導を行った。</p> | <p>(1) ①校内の組織形態の周知をさらに徹底し、指導の方向性の統一を図るとともに生徒が主体的に取り組める体制を作る。 自ら考え行動する生徒の育成に努める。 ②生徒の交通に対する意識とモラル向上を図る具体的な方策を更に検討する。通学路の調査・検討を行う。 自転車利用者の交通法規遵守を徹底させる。</p> | <p>(保護者) ・来校時の先生からの挨拶が少ない。 小中学校までの挨拶の習慣が継続するよう積極的に先生方の挨拶をお願いしたい。 (学校評議員) ・今年度の交通事故の状況はどうか、という質問に対し、重篤な事故はなかったが、自転車による小さな事故は起こっており、安全教育も実施している旨説明した。 ・学校教育だけではなく地域の人々による教育も必要な</p> | <p>(1) ①生徒指導・支援に対し情報の共有化を図るとともに、迅速かつ組織的な対応を行なうことができた。組織・体制のより良い構築を更に目指す。 ②交通規範の更なる徹底を目指し、周知活動を行った。 また、問題点への速やかな着手を実践し、職員間の共通理解を図った。 また、PTAとの連携により、安全指導の徹底を図った</p> |

| | | | | | | |
|---|--|---|---|--|--|--|
| <p>(2) 他者理解や他者との協働による自己実現が行われるよう、学校行事や部活動等を通した生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> | <p>③生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解を深めるため、教育相談やケース会議等、組織的、体系的なメンタルケアをより効果的に活用する。</p> <p>(2) ①高い入部率を維持するため、より効果的に学校説明会、新入生歓迎会、部活動見学会等を実施する。</p> <p>②生徒のコミュニケーション能力向上の機会であることを踏まえ、学校行事、部活動、生徒会活動、委員会</p> | <p>③学年や保健室との連携を密にし、校内での教育相談体制や対応体制を組織的に運用することができたか。また年2回実施する生徒の意識調査等を有効に活用し、いじめや課題を抱える生徒の早期の対応に役立てることができたか。(生徒アンケート・担当者評価)</p> <p>(2) ①入部率が90%以上であるか。(担当者評価)</p> <p>②活動の場面でコミュニケーションが十分に図られているかを見守るとともに必要な指導・助言を行った</p> | <p>③校内教育相談体制を新たに整え情報の共有化と外部諸機関と連携する体制を作る。1回目の意識調査を踏まえ、いじめ防止検討会議で状況把握を行い生徒支援に役立てる。ホームルーム活動や学年集会を通じ、継続的な指導を行った。</p> <p>(2) ①5月1日現在の加入率は92.5%である。</p> <p>②活動の場面でコミュニケーションが十分に図られるよう必要な指導・助言を行った。合唱コンクールや</p> | <p>③校内教育相談体制をより良い組織に整え更なる指導・支援体制の充実を図る。生徒意識を十分に調査・検証し組織的に取り組む体制を作る。生徒理解に基づいた支援体制をさらに充実させる。</p> <p>(2) ①今後も高い加入率を維持する方策を継続する。</p> <p>②より効果的なコミュニケーションが図れるよう指導・助言の充実を図る。生徒の主体的、自</p> | <p>のではないか。(学校評議員) ・県が行う「高校生によるSNS講座」の高校生講師を北陵生が務めるとのことだが、本校のすべての教員に内容を伝達し、心の問題を持つ生徒へ適切な対応ができるようにすべきである。</p> <p>(保護者) ・加入率と活動実態に乖離があるのではないか。成績を上げるために中途退部する生徒もいる。生徒には、3年の引退まで部活動をやり遂げて欲しい。</p> <p>(学校評議員) ・部員が少なく活動に支障がある部活動はないか。</p> <p>(保護者) ・文化祭での生徒の企画力が素晴らしかった。</p> <p>(学校評議員) ・鶴嶺高校との部活</p> | <p>③現行の校内教育相談体制の検証を行い、より効果的な体制を整え、多様化する生徒の問題行動や相談内容に対応できるシステムを構築していく。また、いじめ問題には全校を挙げて取り組み、情報収集等を充分に行った。</p> <p>(2) ①高い加入率を維持した。部員数の少ない部が他の部とコラボレーションする形で活動することもある。</p> <p>②効果的なコミュニケーションを図れるよう指導・助言を行った。</p> |
|---|--|---|---|--|--|--|

| | | | | | | |
|---|---|--|---|---|--|---|
| | <p>活動等を有効に活用する</p> <p>③生徒同士の協働がより活性化されることを目指し、各行事の進行管理を適切に行い、全職員の指導・相談の体制を充実させる。</p> | <p>か。(担当者評価)</p> <p>③適切な進行管理を行い、効果的な指導・相談体制を作れたか。(担当者評価)</p> | <p>文化祭、修学旅行等の行事を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上を図った。</p> <p>③適切な進行管理を行い、効果的な指導・相談体制を作った。</p> | <p>発的なコミュニケーション能力を最大限に伸ばせるよう、教員のかかわり方に留意した指導・助言を行う。</p> <p>③より効果的な進行管理となるよう指導・相談体制の充実を図る。</p> | <p>動連携行事に「北鶴宴」が加わったことはすばらしい。今後も継続してほしい。</p> <p>③効果的な進行管理となるよう指導・相談体制の充実を図った。</p> | |
| <p>【学習指導・授業改善】</p> <p>(1) 身につけさせたい学力のさらなる向上を図り、校内での授業研究、授業改善を継続して推進するとともに、外部の教育力を積極的に導入する。</p> | <p>(1) 「生徒による授業評価」「学習状況調査」等を活用し、身につけさせたい学力の明確化と課題の共有を行い、授業見学、研究授業、研究協議、外部資源の活用を通じて、学力向上を推進する。</p> | <p>(1) 外部資源の活用と、身につけさせたい学力の明確化と共有化を踏まえ、授業改善がなされたか。また、学習者ニーズに応えられたか。(生徒アンケート・担当者評価)</p> | <p>(1) 7月、教科ごとに設定した「身につけさせたい学力」に基づく研究授業を全教員で実施した。 近隣中学校の研究授業に参加した。 夏季休業中に職員を対象とした大学入試の動向に関する外部講師による研修会を実施した。 3月、1・2年でTOEIC Bridgeを導入し、英語能力の客観的把握と、今後の学習指導に役立てた。</p> | <p>(1) 11月の公開研究授業に向け、各教科で「身につけさせたい学力」に基づく授業計画を作成し教育力向上推進事業Ver.Ⅱの研究まとめを行う。</p> | <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の授業の取組について、社会で必要とされるコミュニケーション能力の育成の観点からも、よい取組である。(学校評議員) ・アクティブラーニングに対する取り組みを継続、発展させてほしい。 ・自習室は確保されているのかという質問に対し、空き教室や渡り廊下、図書室での自習の状況を伝えた。 ・3年間の研究が終わるが、今後も「見 | <p>(1) 7月と11月に研究授業を実施し、「身につけさせたい学力」に基づく授業を実施した。88.4%の教員が組織的な取組みで授業改善が進んだという結果が出た。教育力向上推進事業Ver.Ⅱによる効果が表れた。 11月の公開研究授業においては、11名の生徒を研究協議に招いたところ、グループワークで他者の意見を聞くことで理解が深まったり、意見を出し合うことで主体的に考えられ</p> |

| | | | | | | |
|---|--|--|---|--|--|---|
| <p>(2) 生徒の自己実現に向け、教育動向や現状分析を活かした効果的なガイダンスを行う。</p> | <p>(2) 最新の教育動向や、大学や社会で求められる能力の育成を図るガイダンス体制を構築する。</p> | <p>(2) キャリア教育及び学力向上の視点から効果的なガイダンスが行われたか。</p> | <p>(2) 夏季休業中に2・3学年で三者面談を実施した。10月には1年の三者面談を実施した。</p> | <p>(2) 1・2年では次年度の科目選択を中心に、3年では推薦入試等の進路指導の他大学の進学の見据えた進路支援を実施した。</p> | <p>て学び、やってみて、子どもから学ぶ」という研究姿勢を継続してほしい。</p> | <p>たとの意見があった。</p> <p>(2) 1・2年では進路を考えながら選択科目を決定させた。3年では夏期休業中の三者面談を中心にガイダンスを行った。</p> |
| <p>【キャリア教育】 生徒の自己理解、自己探求や自己実現に必要なキャリアに関する能力や態度及び基礎的・汎用的能力の育成を図り、キャリア教育実践プログラムに沿った「総合的な学習の時間」、学校行事、体験活動等をより一層充実させる。</p> | <p>①「キャリア教育実践プログラム」に則り、生徒のキャリアに関する能力や態度の育成を図り、発達を促すため、「総合的な学習の時間」を活用し、社会人OBの講話、大学出張講義、大学等説明会、大学生OB講話等を計画的に実施し、生徒の自己理解、自己探求や自己実現の支援を行う。</p> | <p>①計画どおりに「総合的な学習の時間」を利用し生徒の自己理解、自己探求や自己実現の支援を行えたか。(生徒アンケート・担当者評価)</p> | <p>①計画どおりに「総合的な学習の時間」を利用し支援を行った。特に1年生対象の社会人OB講話においては高校生活の過ごし方について生徒の指針となる講話となった。 大学出張講義、大学説明会、大学生OB講話を実施し、キャリアに関する指導を系統的に実施した</p> | <p>①社会人OB講話は毎年実施しているが、生徒のアンケート結果も好評である。魅力的な取り組みとして継続させるため今後も分野等検討し講師を依頼する。</p> | <p>(学校評議員) ・選挙に対する意識を高める教育をしているのかという質問に対し、政治参加教育やシチズンシップ教育の実践について説明した。</p> | <p>①計画どおりに「総合的な学習の時間」を利用し生徒の自己理解、自己探求や自己実現の支援を行った。 シチズンシップ教育として、「18歳選挙権」についてホームルームや社会科の授業でグループワークを行い、主権者意識を高める教育をした。来年度の1年生に対しては社会科の授業で教育する予定である。</p> |

②実力テストや夏期講習を行うことで、生徒自らの進路実現に向けた学習習慣の定着を図る。

③「キャリア教育実践プログラム」に沿って、身につけたい力の検証をおこなう。

④1年次から3年次までを見据えたガイダンス体制を整え、きめ細かい指

②実力テストや夏期講習を行い、学習習慣の定着が進んだか。(生徒アンケート・担当者評価)

③各行事が「キャリア教育実践プログラム」に沿って計画的に実施されたか。また、各行事に対する育成を図る能力の設定は適切であったかを検証できたか。(担当者評価)

④1年次から3年次までを見据えたガイダンス体制を整えて、きめ細やか

②実力テスト毎に生徒対象の成績概況や今後の学習方法について説明会を開催し学習習慣の定着を図った。また、教員対象の同様な説明会を開催し、生徒の学習達成状況を把握した。夏期講習と夏季休業中の部活動、面談の予定を調整し、計画的に設定した。講習は1年生の受講者数が昨年度の2倍となり半数以上の生徒が夏期講習を利用して学習習慣の定着に効果があった。

③「キャリア教育実践プログラム」に基づき計画的に行った。

④学年ごとに計画的なガイダンスを行った。

②実力テスト後の説明会の日程調整に工夫が必要である。また、生徒一人ひとりの自己実現に向けた面談等の時期や設定について検討する。また、実力テストの効果的な実施について検討していく。学力の向上を生徒が実感できるような取組を工夫する。

③諸能力の設定内容について検討している。

④1年次から3年次までを見据えたガイダンス体制を検討していく。

②効果的な実力テストや夏期講習の計画を行い、学習習慣の定着を進めた。教員対象の同様な説明会を開催し、生徒の学習達成状況を把握した。

③各行事に対する育成を図る能力の設定は適切であったかを検証した。

④1年次から3年次までを見据えたガイダンス体制を整え、きめ細かい指

| | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|--|
| | <p>導を行う。</p> <p>⑤インターンシップの推進をはかり、生徒の社会的な自立の育成を図る。</p> | <p>な指導体制であったか。(担当者評価)</p> <p>⑤インターンシップの推進をはかり、生徒の社会的な自立の育成を図れたか。(生徒アンケート・担当者評価)</p> | <p>⑤インターンシップの参加者は21名となり、昨年より若干増加した。12月に1・2年生全員を対象にインターンシップ発表会を実施し、代表生徒自身の説明によってインターンシップの推進を図った。</p> | <p>⑤より効果的にインターンシップの発表会を行い、インターンシップの推進を図る。</p> | | <p>導を行えた。</p> <p>⑤インターンシップに参加した生徒は全員貴重で有意義な体験をしたとの感想を持った。代表生徒2名による1・2年生全員を対象にインターンシップ発表会を実施しインターンシップの推進を図った。</p> |
| <p>【地域連携】</p> <p>(1) 防災に対する意識向上のための取組や、家庭や地域との協働、協力体制の整備を図ることにより、連携を深める。</p> | <p>(1) 家庭、地域との連携を図りながら教育環境の整備や問題点の改善を図る。防災備品等の管理状況や補充状況の点検をおこなうとともに、防災避難訓練等を適切に実施し、生徒の防災に対する意識を高める。</p> | <p>(1) 家庭、地域と連携し、教育環境の整備をしたか。防災避難訓練等を適切に実施し、生徒の防災に対する意識を高めたか。(担当者評価)</p> | <p>(1) 8月27日に防災避難訓練を実施し、「かながわシェイクアウト」および「地区別避難」の手順について確認するとともに生徒の防災に対する意識を高めた。</p> | <p>(1) 地区別避難の集合後の指導について、さらに生徒の防災意識を高めるプログラムを検討する。</p> | <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練で帰宅困難な生徒に対する対応をより検討して欲しい。 ・防災訓練を見学したい。 ・防災備蓄品の状況はどうなっているかとの質問に対し、9日分の食糧や人数分を上回るレスキューシートの数量等について答えた。 | <p>(1) 防災備品の管理および補充を適切におこなった。 防災避難訓練を計画どおりに実施し、生徒の防災に対する意識を高めた。</p> |

| | | | | | | |
|--|---|--|---|--|---|---|
| <p>(2) 家庭や地域との協働、連携を促進するため、わかりやすく効果的な情報発信を適切に行う。</p> | <p>(2) 高校体験プログラム、学校へ行こう週間、教育広報番組等を通じて学校の取組を発信し、学校ホームページの充実を図る。</p> | <p>(2) 効果的な発信や広報活動が行われたか。学校ホームページを月1回以上更新できたか。(参加者アンケート・学校ホームページの閲覧数)</p> | <p>(2) 行事や部活動の活動状況について、きめ細かな情報のホームページへの掲載を行った。 学級懇談会、教育課程説明会、三者面談の機会を活用し、情報発信を適切に行った。</p> | <p>(2) 保護者あての重要通知について、「学校からの主な配付文書」の欄をHP上に新設した。 より多くの保護者や地域の方が参加できるような時期や内容を検討する。</p> | <p>(保護者) ・部活動の結果が古い情報のままである。適宜更新をお願いしたい。 ・「学校へ行こう週間」について、外部へ積極的な働きかけの工夫をして欲しい</p> | <p>(2) PTAからの通知を中心に、保護者あての重要通知が確実に各家庭に届くよう、情報発信手段の改善が行われた。</p> |
| <p>【学校運営・学校管理】 (1) 教職員一人ひとりの危機管理意識を高めるため、不祥事防止研修会を計画的、組織的に実施する。</p> <p>(2) 徹底して行った創立51年目の学校検証を活かし、一層の教育活動の改善、充</p> | <p>(1) ①各グループが業務の実情に応じ事故、不祥事防止に関わる課題設定を行など、内容を工夫した主体的な研修会を実施し、意識向上をさらに進める。 ②校内の点検体制や管理方法を徹底し、組織的な取組を強化する。</p> <p>(2) ①学校検証をもとに、県や国の動向を視野に入れた研究開発をはじめ、</p> | <p>(1) ①効果的な研修会が適時に実施できたか。(担当者評価) ②個人情報の取扱い等を徹底できたか。(担当者評価)</p> <p>(2) ①教育課程の評価や入学者選抜、高大接続テスト等への対応が適切に行わ</p> | <p>(1) ①現在まで7回の校内研修を組織的に実施した。今後の研修計画も決定しており、より効果的な研修内容としていきたい。 ②所属長メッセージや朝の打ち合わせにより意識を高めた。</p> <p>(2) ①入学者選抜、高大接続テスト等国や県の動向を見据え情報を収集した。</p> | <p>(1) ①校内研修によって個々の職員の事故防止意識の醸成に努めていきたい。 ②マニュアルのより効果的活用について事故防止を徹底する。</p> <p>(2) ①高校改革など県の動向や接続テストの形態など国の行動を注視し校内組</p> | | <p>(1) ①計画かつ組織的に、しかも適時に実施できた。障がい者への理解が深まりその成果が見られたり、各業務の確認や情報管理の再発防止のポイント確認に役立った。 ②所属長をはじめ不祥事防止を職員すべてが意識できたと考える。特にUSBの無作為点検を実施し、取扱いの徹底を図ることができた。</p> <p>(2) ①入学者選抜については、面接試験の改善に向けた「入学者選抜基準の改</p> |

| | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--|---|--|
| <p>実を図り、試行・創造の年と位置づけ、学校力向上を目指す。</p> | <p>新たなグループ編制を有効に機能させる。</p> <p>②確かな学力向上推進研究の成果を職員が共有し、教育力向上についての職員の意識を一層高める。</p> | <p>れたか。行事や教育計画の見直し、検証が継続して実施できたか。</p> <p>②研究成果を職員全体で共有し、教育力向上への意識が高まったか。(職員アンケート)</p> | <p>年間教育計画に関しては、グループ会議及び企画会議において検討した。</p> <p>②6月に全職員で授業研究を行い、7月に研究協議を行い、成果と課題の共有を図った。</p> | <p>織をあげて取り組む準備を進める。生徒の意欲と自主性を高めるための学校行事と授業時間数の確保のバランスを考える。</p> <p>②11月に公開研究授業を行う。教科間の進度の差が出ないよう教科代表者会議等を活用する。</p> | <p>訂を行った。年間教育計画に関しては、来年度に向けた行事や教育計画の見直しを行った。</p> <p>②11月の公開研究授業では、各教科を軸にした職員全体による組織的な授業改善の成果を確認するとともに、外部に発信することができた。</p> |
|-------------------------------------|---|---|--|---|--|

教育目標・教育方針・中長期的な方針など」

○教育目標

- ①心身ともに逞しく粘りのある人間の育成
- ②義務と責任を重んじる人間の育成
- ③社会的秩序を尊重し社会の福祉に貢献する人間の育成
- ④勤勉で努力を惜しまぬ誠実純真な人間の育成
- ⑤確実な学力と豊かな情操を身につけた人間の育成

○教育方針 「確かな学力向上 人づくり」

○中長期的な方針

- ①新学習指導要領への対応を踏まえ、教育課程を見直し、創意工夫ある教育活動を展開するための組織的な取組を行う。
- ②授業改善・研究への取組を組織的に進め、生徒の学習意欲の向上、確かな学力の育成を目指す。
- ③常に検証の姿勢を堅持し、広く県民に期待される学校像の確立に向け、なお一層の教育活動の改善・充実を図る。